

平成21年5月1日

第62号

関東の森林から



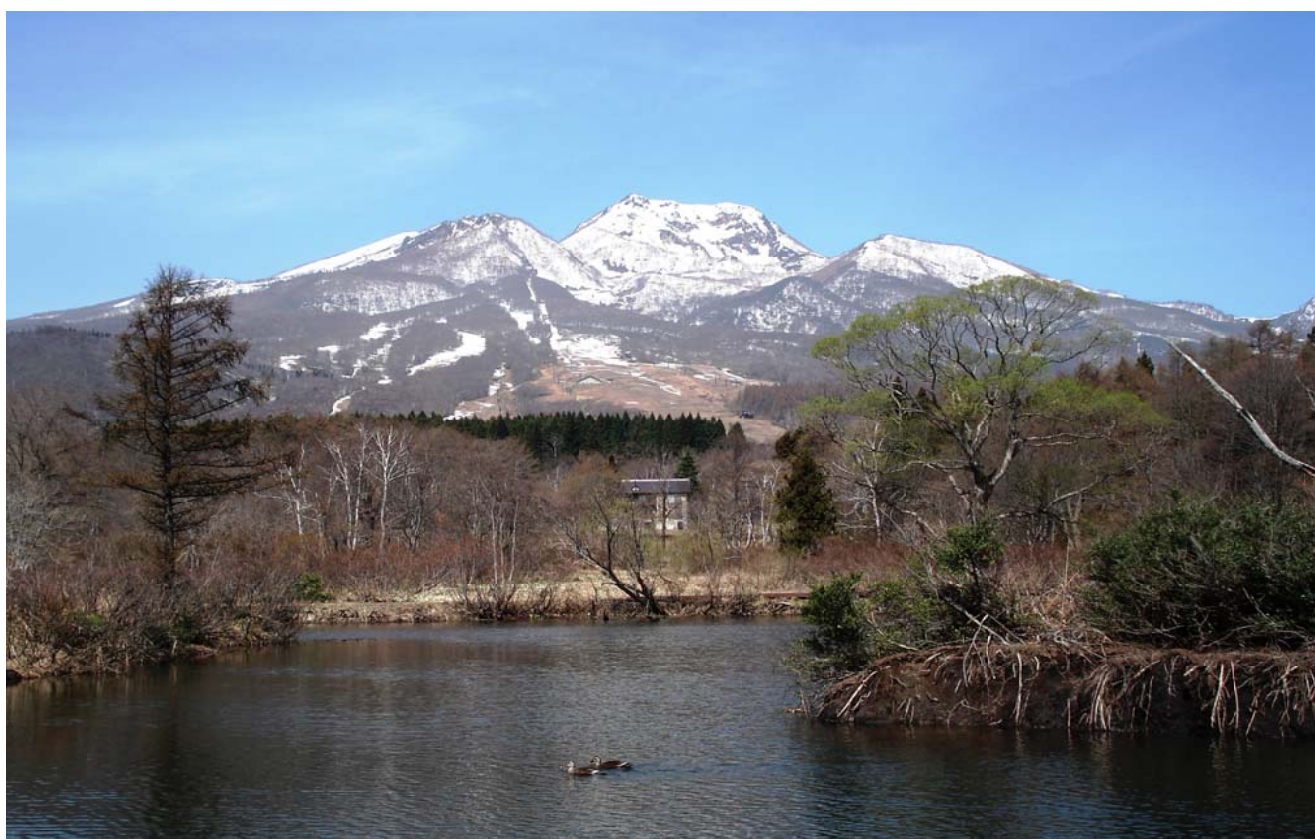
国民の森林 国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



妙高山とイモリ池（新潟県妙高市）

（撮影：上越森林管理署 下平 善文）

美しい森林づくり

平成21年度関東森林管理局の取り組みについて

企画調整室長 石井 洋

私の視点

「美しい那須連山を仰いで」

西郷山岳会会長 真船 真 氏



平成21年度関東森林管理局の取組について

企画調整室長 石井 洋

関東森林管理局では森林・林業基本計画の下で、新たな管理経営基本計画に基づき、公益的機能の維持増進を旨とした国有林野の管理経営を進めることとし、「美しい森林づくり」の推進を通じて、地球温暖化の防止や生物多様性の保全をはじめとする国民のニーズに応えた多様で活力ある森林の整備や木材の安定供給等に率先して取り組みます。

美しい森林づくりの推進

ア 多様で健全な森林の整備・保全を図るため、誘導伐や受光伐、保育間伐などを実施し、長伐期化、複層林化、天然力の活用等による針広混交林化等の推進に取り組みます。

イ 森林吸収目標1,300万炭素トンの達成に向けて、吸収源としてカウントできる森林を効率的かつ確実に増やすために、森林整備事業や保安林整備事業による間伐等の着実な実施に努めます。

ウ 林道等路網整備については、森林の適正な整備・保全を推進するため計画的に実施するとともに、現地に即した工種・工法の採用、低コスト化の推進、間伐材等木材の利用拡大に取り組みます。

エ 国民が安心して暮らせる社会の実現に向けて、計画的かつ効率的に治山事業を実施します。

生物多様性の保全

ア 原生的な天然生林や貴重な野生動植物が生息・生育する森林については、保護林や「緑の回廊」の設定を推進するとともに、希少野生動植物データベースの整備、モニタリングの実施などに取り組みます。

イ 赤谷森林環境保全ふれあいセンターを核として、NPO等との連携による生物多様性保全等の自然再生活動を推進します。

ウ オオタカの生息に配慮した森林施業を行うためのモデル森林の設

定、世界遺産暫定リストに追加された小笠原諸島における外来種対策や利用ルールの定着、試験放鳥されたトキの生息に適した森林づくり方策の検討など、地域に応じた特徴のある取組を推進します。

エ 野生鳥獣との共存に向けて、モニタリング等による個体数管理や生息環境の整備・保全のモデル的な取組を推進します。

森林施業の低コスト化と木材の安定供給

ア 民有林と連携しながら、簡易で崩れにくい作業路の整備や高性能林業機械の活用による低コスト・高効率作業システムの普及・定着に向けた取組を推進します。

イ コンテナ苗を用いた実証的な植栽事業を実施するとともに、生産工程を含めた技術開発を行い、低コスト造林システムの普及・実施に向けた取組を推進します。

ウ 森林整備の推進に伴い生産される木材を安定的に供給するとともに、小径材の大ロット化、林地残材のチップ原料への活用等により木材利用率の向上に取り組みます。

国民の森林としての管理経営

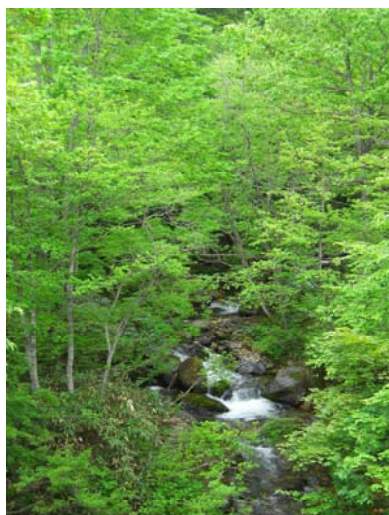
ア 赤谷森林環境保全ふれあいセンターや高尾森林センターの活動を通じた情報・サービスの提供、国有林モニターに対する継続的な情

報の提供、率直な意見や要望をいただく取組を通じて、双方向の情報・意見の交換を推進します。

イ 学校等が体験活動等を実施するための「遊々の森」や学校分収造林の設定・活用、森林・林業に関する体験学習のためのフィールドの整備等を通じて、森林環境教育の推進等に努めます。

ウ ボランティアや企業による森林保全活動の活発化等の状況を踏まえ、NPO等の自主的な森林整備活動等を支援するための「ふれあいの森」や企業が参加する森づくりの推進等に努めます。

エ 地元産業の振興等に資する国有林野の貸付けや売払い、分収林制度の活用、森林空間の総合利用等を通じて地域振興への寄与に努めます。





専攻科講義

養成研修専攻科生(第48期)へ講義
3月26日、森林技術総合研修所において林野庁の若手職員を対象とした平成20年度養成研修専攻科の授業で赤谷センター所長が講師として、赤谷プロジェクトの取組について講義をしました。

全国11箇所に森林環境保全ふれあいセンターが設置された経緯や業務内容、生物多様性の保全に関する日本の政策の歴史的背景等を説明の上、現在、赤谷プロジェクトで行われている官民協働による生物多様性復元に向けた取組などについて説明をし、

赤谷プロジェクト 近況報告

その後、地元との関係や国有林の事業実行との調整、生物多様性の復元に向けたモニタリング調査の詳細などについて質疑応答を行いました。

生物多様性の保全・復元に必要なた材の育成が求められる中で、今回の講義が役立ってくれればと思います。

「赤谷の日」の活動

赤谷プロジェクトでは、毎月、第一土・日曜日を「赤谷の日」と名付け、東京や神奈川からの参加者を含め毎回約30名のサポーターが、「いきもの村」を活動拠点として様々な調査研究活動を行っています。

これまででは、ホンドテンモニタリング調査、木の実豊凶調査及び南ヶ谷湿原の植生調査など、おおよそ決まったグループが担当して実施していました。今年度からは、各人が未経験の調査研究活動も体験し、サポーター同士の情報の共有や「赤谷の森」に対する総合的な知見を高めていくこととしました。

そこで4月の第一日目は、調査に全員が参加して、赤谷林道、小出俣林道及び雨見林道などでホンドテンの糞のサンプリング調査を行いました。初めて参加したサポーターは、なかなか糞を見つけないことが出来ませんでした。慣れてくると、マージングを兼ねて落石の上など目立つところにあることが分かりました。



ホンドテンモニタリング調査の様子

また、餌としている動植物により糞の形状や色も異なっており、その分析を通じて「赤谷の森」の様子を解明していくことも可能であることが理解されるなど、サポーターの認識がより一層深まりました。

第二日目は、「赤谷の森」をよく知るため、これまであまりサポーターが足を踏み入れたことがない赤沢林道や保土野林道で、春の「赤谷の森」にどんな動植物がいるか、また、この森の歴史について調査しました。

「赤谷の日」前の数日間は、冷え込みが厳しかったため春も足踏み状態でしたが、この日はキクザキイチゲやマンサクも開花し、クジャクチョウも元気よく飛んでいました。今回は、これらの活動と平行して、



キクザキイチゲ



クジャクチョウ

赤谷プロジェクト自然環境モニタリング会議委員である国士舘大学の中井達郎さんが同行して、南ヶ谷湿原の調査も行いました。ここは湿原独特の植物や昆虫も存在するため、「赤谷の日」における調査などに基き、今年度は全体の保全計画を作成する予定です。

「赤谷の日」の活動は赤谷プロジェクトを支える重要な取組であり、今後も面白くかつ有意義な内容となるよう取り組んでいきたいと考えています。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)

幹部の紹介

4月1日付(一)は前職

関東森林管理局次長

「東京事務所長」

安藤 伸博
あんどう のぶひろ

〈略歴〉

出身 愛知県

昭和54・4 林野庁入庁

昭和62・4 秋田営林局生保内営林署長

署長

平成3・8 林野庁業務部経営企画課課長補佐

平成7・8 北海道林務部森林計画課長

平成13・4 林野庁森林整備部治山課水源治山対策室長

平成15・8 近畿中国森林管理局計画部長

平成17・4 (独) 緑資源機構森林務部長

平成20・4 (独) 森林総合研究所森林農地整備センター森林業務部長

平成21・4 関東森林管理局次長「東京事務所長」

総務部長

長口 ちょうぐち

深 ふかし



〈略歴〉

出身 熊本県

昭和47・4 熊本営林局矢部営林署入庁

平成8・4 長野営林局諏訪営林署長

平成11・12 林野庁林政部森林組合課課長補佐

平成13・1 林野庁林政部企画課課長補佐

平成14・4 林野庁林政部木材課課長補佐

平成16・4 林野庁国有林野部管理課課長補佐

平成18・4 近畿中国森林管理局島根森林管理署長

平成21・4 関東森林管理局総務部長

関東森林管理局課長等

▽総務部総務課長

佐藤 義雄

(企画調整室監査官)

▽総務部職員厚生課長

高橋 忠男

(企画調整室監査官)

▽森林整備部販売課長

樋口 一雄

(福島森林管理署白河支署長)

▽計画部森林技術センター所長

林田 栄

(独) 農林漁業信用基金林業部管理課課長補佐

森林管理署長等

▽棚倉森林管理署長

嶋田 忠

(総務部職員厚生課長)

▽吾妻森林管理署長

梨本 正昭

(棚倉森林管理署長)

▽中越森林管理署長

枝澤 修

(東北森林管理局青森森林管理署長)

▽福島森林管理署白河支署長

廣野 喜美夫

(中越森林管理署次長)

▽会津森林管理署南会津支署長

竹内 学

(独) 森林総合研究所温暖化対応推進拠点温暖化対応推進室

▽埼玉森林管理事務所長

塩生 勝則

(森林整備部治山技術専門官)

お知らせ

国有林野事業見学会

日頃の忙しさから離れて、森林でリフレッシュしませんか？
国有林野事業を照会するイベントを企画いたしました。

足尾によみがえった森林を見よう
国有林野事業の成果を
実施日 平成21年5月29日(金)
参加定員25名

「奥利根水源の森」と一面のユリを見に行こう
実施日 平成21年8月7日(金)
参加定員25名

詳しくはホームページ又は左記にお電話を

関東森林管理局 指導普及課

027-210-1175

新規採用者の紹介

「美しい森林づくり」の
新たな担い手

4月7日、各森林管理署等へ配属された新規採用者等が新規採用研修の開校式に臨みました。

新規採用職員Ⅱ種10名、Ⅲ種12名の総勢22名を紹介します。

採用者は、研修終了後それぞれの所属先で職務につきますが、先輩方も厳しさの中にも思いやりをもって指導等よろしく願います。

新規採用Ⅱ種（写真後列右から）

吾妻森林管理署

塩見 修平

東京神奈川森林管理署

知野 隆貞

高尾森林センター

日尾 麻美

中越森林管理署

酒井 文子

福島森林管理署

岡川 善尚

磐城森林管理署

湯本 仁

茨城森林管理署

高橋 健

中越森林管理署

篠原 直生



天竜森林管理署

大澤 智也

棚倉森林管理署

田中 ゆり子

新規採用Ⅲ種（写真前列右から）

下越森林管理署

板野 治由

上越森林管理署

丸山 良太

利根沼田森林管理署

西村 優希

静岡森林管理署

小林 隆司

群馬森林管理署

中本 貴博

塩那森林管理署

藤原 佳祐

磐城森林管理署

伊久間 祥平

吾妻森林管理署

河西 里奈

伊豆森林管理署

橋本 由貴乃

山梨森林管理事務所

森瀧 純一

茨城森林管理署

福山 雄祐

福島森林管理署

町田 貴弘

白河支署

労働災害の撲滅を願ひ

安全祈願

平成21年度関東森林管理局の安全祈願式が4月13日（月）前橋市元総社町の上野総社神社において、小林局長、長口総務部長、河野森林整備部長及び関係課長等が出席し、厳粛のうちに執り行われ、重大災害の撲滅を期するとともに、ゼロ災を祈願しました。

平成20年度における当局の労働災害の発生件数は11件で、前年度に比較し2件の増加となりました。災害の主な原因は、転倒・滑落など足元の確認不足によるものや交通事故によるものです。

特に交通事故は一步間違えれば重大災害につながりかねない危険性をはらんでいるので、公私を問わず、安全運転・防衛運転に徹し、交通事故の撲滅に向けて一層の取り組みをお願いします。（職員厚生課）



安全祈願をする局幹部



美しい那須連峰

緑豊かな環境に恵まれた西郷村は、福島県の最南端に位置し、西には日光国立公園が広がり、那須火山系の最高峰1,957^{メートル}の三本槍を始め、旭岳、甲子山と那須連山が美しい姿を見せています。

この連山の東斜面に広がる原生林は、日本海気候と太平洋気候がぶつかりあうことから、両気候の特性をもつ植生が見られ、非常に多くの種類の草木が自生して居ります。

私の視点

「美しい那須連山を仰いで」

西郷山岳会会長 真船 真



雄大な「雄滝」

春の訪れとともに、ヤシオツツジ、ミツバツツジ、レンゲツツジなど多くの花々が咲きほこり、夏にはブナ、ミズナラの原生林を涼風が吹き抜け、秋には溪流に映える紅葉の美しさは見事で、古くから松平定信公を始め多くの歌人、墨客が詩歌を詠み紀行文に綴っています。

阿武隈川の源流のこの周辺には88個もの滝があると云われ、中でも阿武隈雄滝、雌滝は昔から逢隈滝（おおくまだき）と云って信仰の対象で、10時間以上も歩いて、干ばつの時には雨乞いのお祈りをし、豊作の時には感謝の心をこめて御礼の祈りをするなど、水神様の御神体として崇められて来ています。

樹木では、剣桂と云う樹齢300年、樹高35^{メートル}の桂の太木があり、霊經あらたかなる木として村人たちの厚い信仰を集めています。

昔この地に鬼神が現れ甲子路を旅する人々を苦しめていたので、時の城主松平樂翁公が旅人の難儀を救うため剣をもつて鬼神をこの桂の木に封じ込めたと云われている伝説も伝わっています。旅行安全の神として崇められています。平成12年には「全国巨樹巨木百選」にも選ばれました。

この地域では、連山を仰いで季節を知り、天気予想をして仕事をすめるのが村人達の生活で、連山を神様として崇めています。

戦中戦後の国有林の乱伐により大切なものも失われましたが、多くは回復しつつ有ります。

今後は育林の視点から自然を保護するために、管理歩道の整備をしていくことが必要なことから、森林管理署にもご協力をお願いしたいと思っています。

私達も源流の里の責任者として清流を後世に伝えるため、豊かな自然環境保全には特に努力し、美しい環境には健康で心清らかな人々が育つことを信じ、山岳地帯の清掃登山、ごみの持ち帰り運動等の活動をしています。



樹齢300年の「剣桂」

森林官からのたたより

塩那森林管理署

須賀川森林事務所

森林官 秋山 広正

私の勤務する須賀川森林事務所は、栃木県北東部、茨城県と隣接する八溝山地に位置する大田原市黒羽地区（旧黒羽町）を管轄区域としています。

当地域は昔から林業が盛んで良質な八溝材の生産地として有名です。管理面積は、2,123haで全体の90%以上をスギ・ヒノキの人工林が占めており、年間を通じて植付けから伐採まで各種の作業を実施しています。



塩ノ草国有林



東山雲厳寺

森林事務所のある黒羽地区は奥の細道の道中で、松尾芭蕉が2週間にわたり滞在したところでも知られ、多くの名句が残されています。

また、西暦1,283年、北条時宗の時代に後嵯峨天皇の第3皇子、仏国国師が禅堂を開いた臨済宗東山雲厳寺があります。本寺院は、筑前の聖徳寺、紀州の興福寺、越前の永平寺と並んで日本4大道場の一つとされており、県内外からの参禅者が多く訪れます。

管内北部の如来入国有林には樹齢500年、幹周り5m、樹高10mの巨大ブナがあり、地元山の会では「太郎ブナ」と名付け、樹勢の衰え



太郎ブナ

たこのブナを見守りながら何とか元気にさせたいと種々の活動をしています。

平成18年には「NPO法人日本樹木育成研究会」等の協力を得ながら、地元山の会との共催により現地においてシンポジウムを開催し、ブナの治療方法等を検討しました。

当森林事務所でも地元山の会と協力しながら周囲のヒノキを伐採し、照度の確保を図ったり、幹や枝の保護のため支え木による補強作業をしました。

また、平成19年には、林木遺伝子銀行110番を利用したクローン苗の育成を図り、現在6本の苗木が育成されています。

今後はクローン苗を植樹し地元山の会とともに、二世苗木の育成保護活動を進めていく計画です。



収穫調査

森林官として早くも4年目の勤務に入ろうとしています。職員3名、中でも作業班長は山の地図が頭にインプットされており、その正確さはGISもかなわない精度で、日々、助けられています。また、昨年度から新規採用者が加わり、より一層のチームワークと労働安全の確保に心がけ業務に取り組んでいます。

国有林の使命が木材の供給を柱とした時代から、水土保持や生物多様性の確保等の公益的機能を重視した管理経営を目指す時代となり、より一層きめ細かな森林づくりが求められていると感じています。

また、昭和30年代に植林された分収造林地も伐期を迎え、造林者から「こんな時代になるとは・・・」とさみしい声も聞かれますが、循環資源である木質資源の利用が促進され、山村の林業・林産業がもつともっと見直され、地域の活性化が図られ、当時と同じように林業に夢を抱けるような時代になつて欲しいと思います。

管内の百名山 妙高山



妙高山は、新潟県南西部、長野県境にある妙高火山群の主峰で、上信越高原国立公園に属し、富士火山帯の北端にあたる二重式火山で、円頂の中央火口丘を形成しており、標高2,454メートルとなっています。山名は、古くは「越の中山」と呼ばれていたものが、好字二字令により「名香山」と当て字され、それが「みようこうざん」と読まれるようになり、「妙高山」の字が当てられたと言われています。また、別名を越後富士と呼ばれています。妙高山を囲むように2千メートル級のカルデラが形成され、中央火口丘との

間には狭い火口原があり、その南地獄谷、北地獄谷からは、豊富な温泉源があり、裾野の温泉郷へはここから引き湯されています。妙高高原には7つの温泉郷があり、それらは5つの泉質・3色の温泉で、全国的にも珍しく、妙高の大自然に包まれて、心身ともに癒される温泉地として有名です。

昭和53年には妙高山を源とする白田切川上流の国有林において、大規模な地すべり性の崩壊が発生し、それが土石流となって流れ下り、家屋全壊27戸、死者13名、重傷者1名、被害総額56億円を超える甚大な災害が発生しました。

昨年は、災害から30年目を迎えたため、災害の記憶を風化させることがないように、防災のための集いを開催し、亡くなられた13名の方の御冥福をお祈りしました。

はね馬

います。

このように厳しい自然環境の妙高山ですが、残雪が残る5月頃には、山腹に「はね馬」の雪形が現れ、山麓から一気に雪解けが進みます。妙高山の山開き



は7月1日で、登山口は燕温泉が表口で、新赤倉温泉口・池ノ平温泉口と笹ヶ峰口からは年間約3万5千人の登山者が訪れています。また、笹ヶ峰口は火打山や平成18年12月に入山規制解除となった焼山への縦走コースとなっています。

当署では、6月から8月まで、週末を中心にグリーンサポータースタッフが、観光客や登山者に入林マナーを呼びかけるチラシを配りながら、妙高山周辺の自然の魅力をPRしています。今後も地元自治体、ボランティア団体等と連携・協力しつつ、保全管理活動を積極的に展開していくこととしています。
(上越森林管理署広報連絡官)

参加者募集

夢見平ミズバシヨウ
トレッキング

新緑の妙高笹ヶ峰高原で開催します。

皆様の参加をお待ちしています。

実施日 平成21年5月24日(日)

集合場所 笹ヶ峰ダム・乙見湖駐車場

参加定員 先着200名

詳しくは左記にお電話を

上越森林管理署

025-524-2180

お詫びと訂正

平成21年4月1日61号に次のとおり誤りがありましたので、訂正してお詫びします。

「森林官からのおたより」の伊豆森林管理署狩野森林事務所森林官の氏名を左記のとおり訂正します。

狩野森林事務所 森林官

矢田部 彰久

発行所 関東森林管理局
編集 総務課

TEL (027) 210-1158
FAX (027) 210-1159